資料１

令和６年度　新潟市区自治協議会
全 体 委 員 研 修 会 の 記 録

新潟市市民生活部
市 民 協 働 課

目　次

１　開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　分科会（意見交換）における主な意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３　研修後アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

１　開催概要

【目　的】

令和６年能登半島地震を経て、災害に対する日頃の備えや発災時の迅速な判断と行動の重要性を改めて認識したことから、防災をテーマに「市民と市との協働の要」である区自治協議会が、地域の代表として、区民の防災意識の更なる向上を目的に実施

【概　要】

〇開催日時・会場

・日　時　：令和６年５月１０日（金）　１３：３０　～　１６：１５

・会　場　：東区プラザ　（新潟市東区下木戸１丁目４番１号）

〇プログラム

１　事例発表

・代表区より、防災に関する取組事例を発表

区	発表事例（第９期自治協提案事業）	発表者
秋葉区	防災講演会 「土砂災害の現状と自然災害に対する自治会長の心構え」	青木　貞義　様
西　区	自然災害に備える！西区版アワータイムラインの作成	古俣　和博　様
西蒲区	西蒲区防災啓発事業（防災講演会・防災演劇）	吉田　金豊　様

秋葉区「防災講演会」

西区「アワータイムラインの作成」

西蒲区「防災演劇」

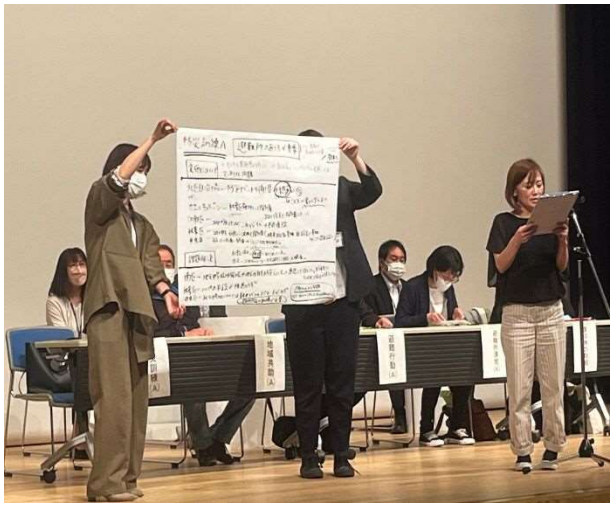
２　分科会（意見交換）

・令和６年能登半島地震を受けて、「地震」に関する各テーマで意見交換を実施
・多様な意見を共有し、今後の活動の参考としていただくことを目的に実施

分科会テーマ（グループ）		話題（例）
平時	防災訓練 （A・B）	・多世代から参加してもらうための工夫 ・実効性を高めるための工夫　など
	地域共助 （A・B・C）	・避難行動要支援者（高齢者、障がい者など）との関係づくり ・地域で行う備え、個人で行う備え（備蓄等） ・津波ハザードマップの活用や地域における伝達方法　など
発災時	避難行動 （A・B）	・避難の判断基準や必要な行動 ・携行品や避難手段（徒歩）における注意点　など
	避難所運営 （A・B・C）	・避難所の運営方法 ・要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦）への支援 ・長期化した際に必要となる対応　など
復旧時	復旧時の取組	・災害による地域課題や住民のニーズ把握 ・市民と行政をつなぐ「要」としての役割　など

３　全体共有

・代表分科会（各テーマから１分科会）より、意見交換の概要を全体に共有



○参加者

１　当日参加者　１２８名

（区別内訳）　（人）

北　区	東　区	中央区	江南区	秋葉区	南　区	西　区	西蒲区	合　計
16（30）	21(32)	21(32)	18(30)	14(29)	10(30)	11(36)	17(30)	128(249)

※(　)内は R6.5.1 時点の各区自治協議会委員数

２　分科会参加者内訳

（区別内訳）　（人）

分科会テーマ	区								合計
	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	
防災訓練	1	2	3	4	4	2	5	4	25
地域共助	5	9	1	5	4	1	3	5	33
避難行動	5	4	5	1	2	1	2	2	22
避難所運営	4	2	9	7	3	6	1	3	35
復旧時の取組	1	4	3	1	1	0	0	3	13
合計	16	21	21	18	14	10	11	17	128

２　分科会（意見交換）における主な意見

各分科会における意見交換の内容について、模造紙や書記係のメモをもとに、主な意見を掲載します。<u>※内容については当課の方で類似意見の集約・要約をしています</u>

【防災訓練（A）】

キーワード	主な意見
課題	● そもそも防災訓練の実施率が低い ● 学校単位では行っているが、自治会ではノウハウが無く実施が難しい ● 内容のマンネリ化 ● 避難所にキーBOX が設置されるため、誰でもすぐに開錠できるように備えておくなど、避難所開設の訓練が必要
各区の取組状況	＜北区＞ ● 令和３・４年度に自治協提案事業で防災イベント「目指せ防災力向上！」を開催し、子どもが楽しく学べる体験が高評価だった ＜東区＞ ● 昨年「防災・安心安全フェスタ」を開催し、災害救助車の展示やちびっこ消防隊（子ども用防火衣をつけての写真撮影）など、子どもに少しでも興味をもってもらうことが重要 ＜中央区＞ ● 毎年１０・１１月頃に開催した経験が活かされ、能登半島地震の際はお年寄りがスムーズに避難することができた

キーワード	主な意見
各区の取組状況	＜江南区＞ ● コロナが収束してきたので、これからイベントを開催予定 ＜秋葉区＞ ● 令和３年に荻川で、おもちゃの物々交換（かえっこ）と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベント「イザ！カエルキャラバン」を実施した。防災訓練に「体験する」楽しさを加え、地域の防災力を向上させていくことが大切 ＜西区＞ ２２自治会の３分の１に出張講座を開催
課題解決に向けた方向性	● 避難所開設の訓練や避難所のあり方検討が必要 ● ハザードマップの確認等の自助の意識向上 ● 子ども連れの家族が防災訓練やイベントに参加することが大事 ● 子どもの参加については、親世代へのアプローチが鍵となる

【防災訓練（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 避難訓練と実際では全然違う。今回は津波警報が出たので、避難者が一斉に上階へ避難し、決めておいた区画も全然守られていなかった ● 受付カードも作っている余裕がなかった ● 暖房や具合の悪い人の対応など避難訓練の際に想定されていないことが多かった
避難訓練	● どんな防災なのか？具体的な災害を想定してより実際に見合った訓練にすることが必要 ● 地盤が強いため関心が低いのか、訓練に人が集まらない ● 自治会やコミ協ごとに意識が違い、訓練にも温度差が出ている ● 何を想定した訓練なのかよく分からないというのが大問題
地域を知る	● どのような災害が想定されるのか、まずは自分の住む地域を知ることが大切
今後の訓練に想定すべきこと	● 日中、小中学生が学校にいる間に地震が起こった場合、子どもたち自身で身を守れるよう訓練する必要がある。誰がリーダーとして率先していくのか考える機会も必要 ● 部分的ではなく初動対応から長期化した場合の避難所運営まで一貫した訓練を行い、避難者が誰でも対応できるようにしておく ● 小学校では年に４回様々なシチュエーションで訓練を実施しているため意識は高い。どのように親世代を巻き込んでいくかが重要 ● 避難行動要支援者に関する情報共有や避難時の対応方法を考える ● 避難訓練以前に、自分の地域で起こりえる災害の想定を明確にする

【地域共助（A）】

キーワード	主な意見
情報の共有	● 自治会・町内会の行事に参加し、情報を共有する ● 近所で何かあった時にお互いに支え合える関係をつくる ● 地域の方々と顔の見える付き合い、声を掛け合える距離感を心掛けることが共助につながる ● 回覧板等での周知が大切
要支援者への支援	● 高齢者・障がい者への支援を地域に意識づける ● 避難行動要支援者の確認 ● 引きこもりの若年層はどこに避難するべきなのか ● 障がいの特性に応じた対応を心掛ける ● 緊急避難に対する地域住民の心構えが不足している ● 緊急時における要支援者への周知が重要
ハザードマップの周知	● 緊急避難場所に関するマニュアルに不備がある ● ハザードマップの活用方法が地域住民に知られていない ● 避難する合図やレベル感、どの程度ならどこに逃げるべきなのか判断基準を確認するべき
自治会とのコミュニケーション不足	● 日頃からボランティア活動などに積極的に参加する ● 避難訓練に参加し、役割分担や自分達にできることを確認する ● 近所の付き合いがないことが原因 ● 日頃からの多世代交流が大切 ● 相談できる関係性をつくることが大切 ● 役割分担の徹底、一人に集中させない
公助	● 自治会、コミ協、包括など地域の各機関とつながりを深める
備蓄	● 自治会で多少の備蓄品の用意が必要 ● 必要な備蓄品は各家庭で用意しておくことが重要

【地域共助（B）】

キーワード	主な意見
地域の備え	● ハザードマップを自治会回覧に ● 子ども向けの防災訓練実施 ● 要支援者を名簿等で把握 ● 学校の防災訓練に地域（自治会）が参加する
個人の備え	● 避難所の備蓄物資に頼るのではなく、必要な物資は個人で用意する ● 地域の祭りや親睦会などに参加し、顔の見える関係性をつくる ● 避難所運営訓練の継続「これをやればよい」という考え方を改善する

【地域共助（C）】

キーワード	主な意見
コミュニティ（地域力）	● 日常的な交流と関係づくりが大事 ● 日頃のつながりの中でコミュニティをまとめていく人が必要 ● 自治協やコミ協がプラットフォームとして、地域のつながりを広げ、課題は各団体や地域に持ち帰り、地域力を高めていく
要支援者	● 要支援者と誰が一緒に行動するのかを考える ● 要支援者がどのようなサポートをしてほしいのか把握しておく ● 要支援者・要配慮者の状況に応じた避難場所を考える
備え	● 自然災害の種別により、事前に避難行動をハザードマップから想定し、地域で共有しておく ● 地域と子ども達の普段からの交流 ● 学校での避難訓練の見直し ● 個人情報保護の壁があり、要支援者に関する情報共有が難しい ● 地域の行事を積極的に開催し、顔の見える関係性をつくる
防災教育	● 防災手帳、防災ゲーム、キャンプなど遊びながら防災知識を学べるような多世代へのアプローチが必要

【避難行動（A）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 地域の中でも危機感に差があり、避難しない方が一定数いる ● 近くに丈夫な建物がなく、手狭な避難場所に人が殺到した ● そもそも避難場所が分からない ● 津波警報発表時、自治会にどのように働きかければよいのか迷った ● 近所の老人憩の家を緊急避難場所として開設した ● 年配者は動きたくない人が多く、避難所への誘導に手を焼いた ● 町内の老人世帯を中心に声掛けを手分けして行った ● 車で避難してくる人が多かった ● 地域によって津波の被害の有無が異なるのに、同じ情報で一律に避難してしまうことが課題 ● テレビの地震情報に困った。誰に対して発信しているのか分からず、避難すべきか不安になった
今後の課題	● 地域の指定避難場所に囚われずに逃げる ● 避難場所の収容能力に地域差がある。代替地を検討してほしい ● マンションなどへの近隣住民の受入 ● まずはハザードマップを見るなど避難行動の必要性を冷静に判断する ● 要支援者への対応については取組の対策が不十分 ● 避難訓練において本番の意識が低い

【避難行動（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● どこに避難すればよいか分からなかった ● ハザードマップの見方が分からず、実際の行動が分からない ● 元日だったため家族の安否確認がスムーズにできた ● マンションへ避難した人もいた。津波の場合は、近隣のマンションやビルに逃げ込むことも１つの選択肢だと思った ● 要支援者への対応ができていなかった ● いつまで避難所にいるべきなのか情報が入ってこない ● 避難所と津波の際の避難場所（高い所）のどちらに避難すればよいのか分からなかった
判断・情報	● 新潟市公式 LINE が含む情報が現実の地名に当てはまらない ● 災害の種別によってどこが避難所に指定されているのか分からない ● 避難所の開設基準が分からない

【避難所運営（A）】

キーワード	主な意見
避難所運営	● 避難所運営の事前訓練が必要 ● 津波予想に基づく避難所運営は難しい ● 避難所運営方法について、今までの組織体制でよかったのか検証報告していただきたい ● 要支援者に対して情報共有ができない。 ● 要支援者や要配慮者向けのスペース確保が必要 ● 防災士を育成して一人でも多く避難所運営のリーダー格を増やす
避難場所	● 津波の時の避難場所が分からない ● 避難所、一次避難所、津波避難ビルの違いが分からない ● 海抜０m地帯の地域では、体育館が使えなくなるため、今後の水害に備えて避難先を検討すべき

【避難所運営（B）】

キーワード	主な意見
避難所の開閉	● 学校が避難所に指定されている場合は誰が開けるのか ● 避難所を開設する基準が複雑で分からない ● 避難所を閉めるタイミングは誰がどのような基準で決めるのか
避難所運営委員	● 避難所運営委員には、要支援者、子育て世代の女性、高齢者などから幅広く参加してもらっているのか ● 避難所運営委員の立ち位置をはっきりさせてほしい ● インセンティブをつけて立ち上げ指導を強化する必要がある
避難所運営	● 避難者カードは初動では間に合わず機能しない ● 避難者の帰宅は誰が判断するのか ● 障がい者や高齢者が階段を上る避難方法は今後の課題 ● 備蓄物資が１階の体育館にあることは問題だと思う ● 学校関係者が来ないと教務室を開けることができないため、体調不良者が出た際に保健室を使用できない
能登半島地震の振り返り	● 市職員が来てくれなかったため、運営方法が分からなかった ● 市職員が来なかったため備蓄の開封を迷い、毛布や水の配布が遅れた ● 避難所（小学校）の設備が不十分で冬だと寒さで体調不良になる ● 避難所内で家族とはぐれてしまった高齢者がいた ● 津波警報が出ていたため、帰宅を勧めることができず対応に困った ● 足の悪い高齢者を乗せた車が避難所の入口付近で停車した際に、他の避難者から怒鳴られていた。車で避難所まで移動することは良くないことなのか疑問に思った

【避難所運営（C）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 避難所に土足で入ってよいのか迷っている人がいた ● 学校関係者が来ないと設備の使い方が分からない ● 一時的に避難が殺到して人数把握ができなかった ● 避難者カードの作成はできないと思う ● 備蓄が圧倒的に足りない（食料、女性用品、赤ちゃん、介護）
避難所の中での課題	● 防災士の人がいるとよい ● 情報伝達機器の配備が必要 ● 学校の管理者が到着しなくても運営できるように訓練しておくべき ● 中高生や若い人の力を活用したい ● 情報収集のために避難所内に掲示板を早い段階で設置するべき ● 授乳室の確保 ● 動物（ペット）の避難場所の確保 ● 要配慮者や女性が安心して避難できる仕組みを避難所につくる ● トイレ問題、セクハラ、盗難対策をどのようにしていくか
避難所の外での課題	● 避難所運営は市役所がやるものだと思っている人が多い ● 要支援者の情報把握 ● 避難所運営委員を各自治会で３～５名選任しておくことが必要 ● 連絡網を作成しグループを作る ● 避難所の場所が周知されていない。防災の取組をしていない地域もあるため、取組を広めることも重要
行政の役割	● 防災教育の推進 ● 行政と民間の役割分担 ● 避難所の備蓄品の情報確認 ● 福祉避難所が少ない

【復旧時の取組】

キーワード	主な意見
災害による地域課題や住民ニーズ	● 個々の生活を復旧させていくことが、地域の復旧につながる ● 公益サービス、学校、病院などライフラインの復旧が進まないと家族の復旧が始まらない ● 液状化の地盤復旧は地域全体で取り組む必要がある
情報共有	● 国や県、市の補助金など復旧に向けた支援策を知らないことが不安につながるため、復旧時において情報の取得と共有は大切
心のケア	● 被災したことで前向きな気持ちになれないと思ってしまう ● 住民のつながりを通じて被災者の心をケア ● 地域の支え合いセンターの活用、推進員の配置
市民と行政をつなぐ「要」としての役割	● 復旧時の地域をまとめていくリーダーが重要 ● 地域のリーダーをどのように育成していくかが課題

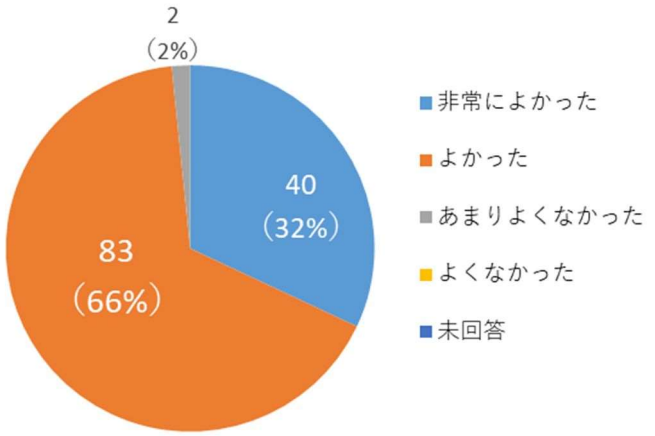
３　研修後アンケート結果

回収率：98%（回答者数 125 名）

本日の研修会の内容はいかがでしたか？

- 非常によかった　40 件
- よかった　83 件
- あまりよくなかった　２件
- よくなかった　０件
- 未回答　０件

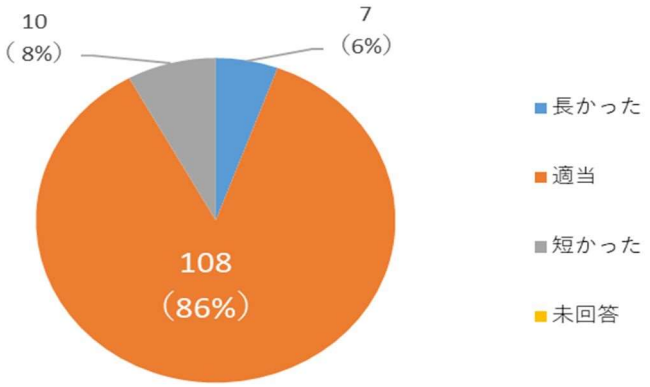
約９割が「非常によかった」又は「よかった」と回答



研修会の所要時間はいかがでしたか？

- 長かった　７件
- 適当　１０８件
- 短かった　１０件
- 未回答　０件

約８割が「適当」と回答



時間を短縮してもよいと思うプログラムを１つ選択してください。（研修会の所要時間について、「長かった」と回答した方のみ）

- 事例発表　１件
- 分科会　４件
- 全体共有　１件
- 未回答　１件

「事例発表」を選択した主な理由

- 資料を読んで大体理解できる
- 分科会の時間が少なすぎると感じた

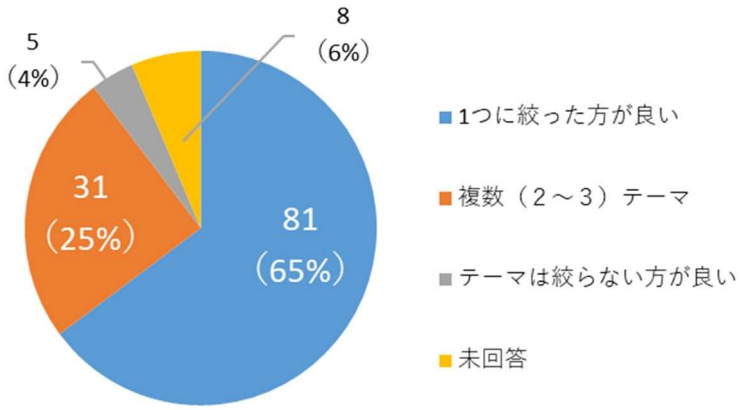
「分科会」を選択した主な理由

- 意見が早々に活発に出たので、もう少し短くてもよい
- 建設的な話し合いや新しいものの見方を期待していたが、愚痴や若い人（３０～５０代）への不満が多かった
- 何について話をするのか絞るべき

今回は防災にテーマを絞って実施しましたが、テーマ設定についてはいかがでしたか？

約６割が「１つに絞った方がよい」と回答

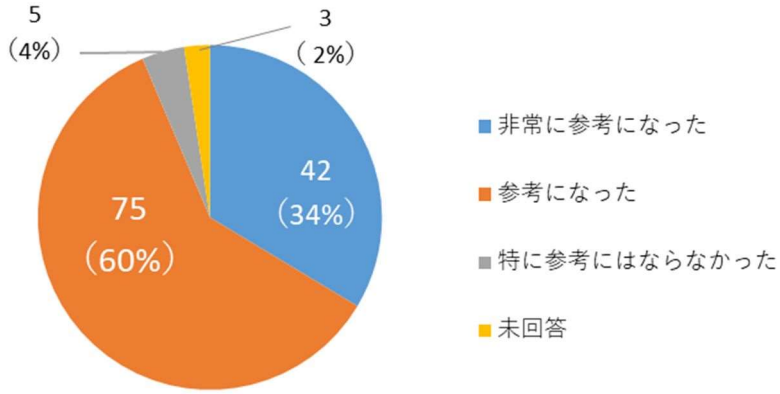
- １つに絞った方がよい　８１件
- 複数（２～３テーマ）　３１件
- 絞らない方がよい　５件
- 未回答　８件



事例発表や分科会の内容は、ご自身の区にとって参考になりましたか？

約９割が「非常に参考になった」又は「参考になった」と回答

- 非常に参考になった　４２件
- 参考になった　７５件
- 特に参考にはならなかった　５件
- 未回答　３件



次年度の研修会はどのようなプログラムが必要だと思いますか？（第２希望まで回答）

- 講演　３４件
- パネルディスカッション　１５件
- 事例発表（１区１事例）　２２件
- 事例発表（代表区のみ）　３６件
- 分科会（意見交換）　５５件
- 全体共有　１４件
- その他　０件

※上記の回答件数は、第１希望と第２希望の合計値

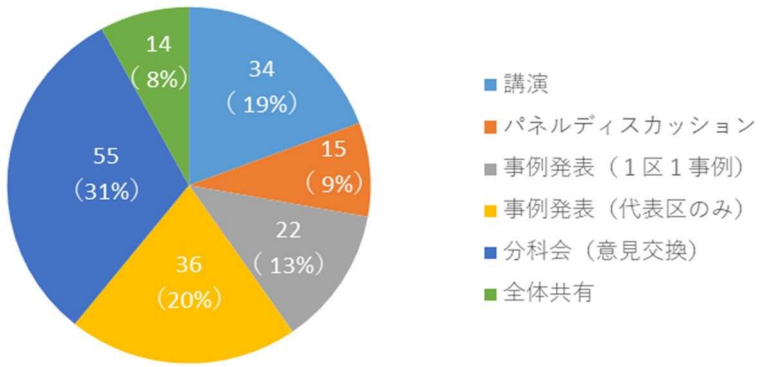
第１希望の回答数

分科会（意見交換）：２６件　　講演：２１件

事例発表（代表区のみ）：１９件

事例発表（１区１事例）：１６件

パネルディスカッション：　７件　　全体共有：１件



次回の研修会でテーマを設定する場合、取り扱ってほしいテーマの番号を第３希望までご回答ください。（下記の回答件数は、第１希望～第３希望までの合計値）

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	区名未記入	合計
防犯	1	2	1	1	1	0	0	0	0	6
防災	8	4	4	9	6	3	3	4	0	41
交通安全	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
高齢者支援	5	9	3	3	3	1	3	3	0	30
子育て教育	5	5	2	3	4	1	2	7	1	30
環境	1	2	2	3	1	2	1	1	0	13
商工産業	0	1	0	4	0	1	0	0	0	6
地域交通	3	3	5	8	6	2	2	1	1	31
賑わい創出	3	3	3	5	2	3	1	3	0	23
魅力発掘・発信	6	5	1	8	1	4	2	2	0	29
空き家	2	7	2	6	4	2	4	6	1	34
文化活動	0	3	0	1	2	0	2	1	0	9
スポーツ活動	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
移住促進	1	2	1	0	2	1	1	2	0	10
その他	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5

【その他の内容】
・部活動の地域移行
・自治会内にある集合住宅居住者とのコミュニティのあり方

その他、研修会に関するご意見がありましたらご記入ください。
【主な意見】 ・元日の地震以降、防災の重要性を感じています。「自助」をもっと高め、近所の方とつながりを持ち、日々、防災意識を高めていきたいと思った。 ・能登半島地震の発生により避難所が開設されたことで、問題点が見えたこともあり、活発な意見交換ができた。 ・他区の活動の様子や内容を知ることができて参考になった。 ・防災士として若い女性委員２人が登壇していたことが刺激になりました。 ・分科会では他区の委員と交流できて良かった。 ・分科会での意見交換は活発でとても良かったが、全体共有の発表がグループＡのみだったので、まとめが弱かった。 ・時間配分を考えて議論をコントロールできるよう、分科会の司会等の役割は事前に決めて打ち合わせした方が良いと思う。 ・分科会や全体共有で話し過ぎる人が多いため、タイムキーパーが必要。 ・分科会はそれぞれが好きなことを話していただけで、もう少しテーマを絞るとよかったのでは。 ・区単位の取組事例だけでなく、自治会単位の取組の中から有効事例の発表があってもよい。 ・話し合いの目的を共有したうえで、分科会が進むとよいと思った。 ・全体共有の付箋が見えない。